

学年の取組より ～学年弁論大会～



先日は全学年で、学年弁論大会が行われました。それぞれの学年の1部の生徒の発表しか聞くことができませんでしたが、それぞれに胸を打たれました。自分の中のしんどさや、これまで他の人に言っていなかったこと、疑問に思っていること等をみんなの前で発表することは勇気がいったことだと思いますが、みんな本当に偉かったです。聞いている生徒たちにも発表者のことを理解したり、世の中に目を向けるきっかけになったりしたのではと思います。

今週はいよいよ文化祭です。いろいろな発表が楽しみです。

教科主任会より ～「意味的理解」について～



先日の教科主任会では、本校の学力課題の1つである「意味的理解をともなった知識の習得」について、「**意味的理解をしている生徒の姿とはどんな姿か?**」という点について共有を図りました。

また、各教科会では、教科主任から早速その共有が図られ、有難く感じたことでした。

それぞれの教科で意識していきましょう。

意味的理解をしている生徒の姿

- ・用語の意味を説明できる。(性質やそれを使う良さ等)
- ・習得した知識を他の場面でも使うことができる。
(知識が動きや技能に表れている。/技法の意味を理解し効果的に使うことができている。/解決方法を知っている。等)

その姿にするために

- ・発問を工夫する。
- ・その用語を使ったり説明できたりすると、「みんなが分かってくれた」、「より伝わった」、「便利」、「効果的」、「得をした」という場面を増やしていく。



組織力向上 中間検証 ～アンケート結果より～

組織力向上の指定に係り、指標に対する現在の状況をお知らせします。報告が遅くなり申し訳ありません。

*先生方の意見は抜粋

1 教科会での話し合いは、自己の指導力の向上につながっている。肯定的評価 100%、強い肯定 70% (20/29 名)以上

肯定的評価 100%、強い肯定 86.7%(26/30 名)

- ・問題、めあて、まとめ、振り返り等、具体的な授業実践に関わる点において、教科会で知恵を出し合える。
- ・経験年数の異なる教員間で話し合うことで、様々な視点で課題や発問を出し合うことができる。
- ・学テの分析を行うことで、どのような学びが求められているか考えることができた。

2 教科会での話し合いは、子供たちの学力の向上につながっている。肯定的評価 100%、強い肯定 30% (9/29 名)以上

肯定的評価 96.7%、強い肯定 66.7%(20/30 名)

- ・生徒の状況について確認し合え、手立てを講じることができている。また、評価方法や内容についての研究が深まっている。
- ・教員として目指したいことと目の前の生徒が求めているものに差を感じる時がある。
- ・学力の向上につながっているかどうかの検証ができていない。(技能教科)

学習指導要領や生徒の実態をもとに、単元や1時間の授業を今後も教科会で検討していきましょう。

3 OJT 研修兼メンターチーム会は、自身の教員としての資質向上につながっている。肯定的評価 100%、強い肯定 60% (5/7 名)以上

肯定的評価 100%、強い肯定 85.7%(6/7 名)

- ・様々な自主的な取組や先生方の講話を通して、疑問に思ったことや気付いたことなど、新たな発見や学びがたくさんある。